

～人権が尊重されるまちをつくろう～

～身近な生活の中から学ぼう～

2020.10.21

第 72 号



# 人権・同和教育だより 丹波篠山

発行

丹波篠山市

人権・同和教育研究協議会

TEL・FAX 079-593-1260

http://www.pure.ne.jp/~jinken/index.html

〒669-2734 丹波篠山市宮田240

丹波篠山市役所 西紀支所3F

年3回発行 6・10・2月

## コロナ禍と人権

新型コロナウイルスの収束の見通しがつかず、ウイルスという見えな  
いものに対する不安や恐怖から、全国では多くの人権侵害がおきてい  
ます。今号では、6名の編集委員と丹波篠山市同教役員の視点からコ  
ロナ禍についてのそれぞれの思いを綴っていただきました。

### 感染リスクの高い仕事で 頑張っている人への感謝!

医療、ごみ収集、公共交通機関等々、感  
染リスクの高い仕事に従事し、私たちの生  
活を支えてくださっている方への感謝の気  
持ちは表そう! 「ありがとう」「気を付けて  
下さいね」

### 感染された方、療養から 帰られた方へのやさしさを!

充分注意していても、誰が感染してもお  
かしくない病気です。  
感染された方へ「お大事に」。療養から  
帰られた方へ「お帰り」。そんな一言が嬉  
しいものです。今こそ人を大切にしたい思  
いを持ちたいですね。

### 今こそ、みんなで一緒に 感染症と闘おう!

「かかるかもしれない」という不安から、  
人を排除したり、批判するのではなく、今  
こそ、みんなで支え合い、つながり合っ  
て、連帯感をもって、感染症に立ち向か  
おう、知恵を出し合おう!

### 思いを馳せる

「過日娘から連絡があった。「幼稚園の  
運動会、見学できるのは1家庭に2人まで  
らしい。ごめんね。」「いいよ。また動画で  
楽しむから。」初孫の初めての運動会だが、  
今のコロナ禍では仕方がない。この時期、  
どうすれば安全に行事を実施できるかを考  
え、苦渋の決断をしなければならぬ。  
娘からの連絡を受けた時、そんな人たちの  
心労に思いを馳せずにはいられなかった。

### 人権・環境の世紀 Vs. ウイルスの世紀

21世紀は「環境の世紀」「人権の世紀」  
である以外に、「ウイルスの世紀」と呼ば  
れることがある。それは、人間社会の発展  
が新たなウイルスの出現を促し、感染を加  
速させているからだ。人権や環境の意識も  
また、社会の成熟とともに高まった。ど  
ちらが勝つか負けるかは、私たちの意識と実  
践に委(ゆだね)られている。

### 大切な人の最期を 看取れないなんて

長い間コロナのせいで、面会が自粛に  
なっていたが、やっと面会が許されて老人  
ホームで暮らしていた母に会いに行くと、ス  
クリーン越しに顔を見て話げできた。でも、  
手を握ることも背中をさすってあげるこ  
ともできず、淋しいかぎり。  
その母の体調が悪くなり、病院に入院す  
ることになったが、またまた面会はできな  
い。会えたのは、入院した日と容体が急変し  
て危篤状態になってから。それでも母の最  
期を看取れたのは家族として救いだっ  
た。

コロナで亡くなられた方のご家族は、大  
切な人の最期さえ看取れなかったと聞く。  
本当に胸が痛む。

### 幸せになれ

大学入学時から篠山を離れ10年が過ぎ  
たこの秋、娘が結婚式を挙げることになっ  
た。今年結婚した多くのカップルと同様、  
披露宴をどうするかかなり悩んだとのこと  
であったが、先日招待状を発送したとの連  
絡を受けた。  
娘夫婦の幸せを願うことはもちろんだ  
が、それよりもつつがなく披露宴を終えら  
れることを祈る気持ちの方が強い。

### こころの感染を防ごう

虫垂炎で入院し調子悪くなったので抗  
生物質を多く投与してもらったら、退院後  
に高熱が続いてしまった。  
高熱が続いたことを知り合いに話した  
ら、「あしたの趣味の会、あなたが出席す  
るんだら、私欠席するわ」と伝えてきた。  
どうも新型コロナウイルスに感染したの  
ではないかと疑われたみたい。  
追い打ちをかけて、「まだ検査をしてら  
せてないんでしょ」と言われた。  
凄くショックでした。

### 後戻りはできない

インターネットへの書き込み等が、コ  
ロナ差別の「汚染源」となっていることに関  
して、「インターネットも規制が必要」と  
の記事を見つけた。今よりネット接続を制  
限された社会に戻ることができるだろう  
か。おそらく答えは「否」である。差別  
を許さないネット社会を築いていくのも、  
私たちの責任であるはずだ。

### 負の歴史を 繰り返さないために

「コロナ禍」「ソーシャルディスタンス」  
「テレワーク」などなど、今まで使ったこ  
ともない言葉は、感染拡大が長期化し日  
常の言葉になった。おまけに疫病よけの  
妖怪「アマビエ」まで登場した。  
しかしながら生まれてほしくなかった言  
葉もある。「コロナヘイト」「コロナ差別」。  
病気に対する偏見は黒い影を落とす  
てきた歴史がある。注意していたのに病  
気になって責められるほど理不尽なこと  
はない。誰もがかかる病気だということ  
を今一度考え行動したい。

### 私は、私が生まれた この町が好きや!

コロナウイルスに感染した人が、自分  
の生まれた町に住みにくくなったというよ  
うな事が全国で起こっているようだけ  
れど、誰もが住みたい町に住めることは当  
然のこと。自分が生まれたこの町で、私  
は生きていくで!

### 自称・自警マスクマン、 マスクウーマン

コロナウイルス感染拡大を防ぐために、  
みんなマスクをしている。マスクをしてい  
ない人がいれば、その人に向かって、「マ  
スクせんかい!」と、高圧的に言う人がい  
るけど、もっとその人に寄り添う言い方  
があると思うねん! 「言葉」って、心の  
写し絵やからな!

### コロナ禍でみえてくる 子どもの遊び場

最近、外で子どもたち同士が集まって遊  
ぶ姿を見かけなくなりました。  
子どもたちにとって、学校以外の主な遊  
び場所は公園ですが、コロナ禍から、公  
園の立ち入りや遊具の使用を禁止され  
たり、公園で遊んでいると近隣の方から家  
の中で遊ぶように注意されたこともあり  
ます。子どもが公園でできる運動や遊  
びは限られており、子どもは遊びたく  
ても遊べないのが現状となっています。

### みんなが集える日はいつ?

「GoToトラベル」や「GoToイート」が  
スタートしてこれまでに人々が活発に動  
き、新型コロナウイルスの感染が落ち着  
いてきたような感覚になりつつある昨今。  
しかし、都会で暮らす私の息子たちは親  
に感染させるリスクを避けるため、帰省も  
ままならない。帰ったときの近所の目も  
気になるらしい。そんな息子たちの気遣  
いがうれしくもあり寂しくもあり。早く  
以前のよう、家族みんなが集える日  
が来ることを願っている。

### 排除すべきはウイルスであって、 決して人間ではない

お寺の掲示板に書かれていた言葉にハッ  
とした。  
コロナに感染した人は、いたわられるべき  
はずなのに。感染したことは自己責任なの?  
丹波地域で感染者が公表されるたびに、  
犯人捜しのような噂話が飛び交う。悪意  
はないかもしれないが、噂を立てられる  
側になつたらどんな風を感じるか想像  
できる自分でありたい。感染者だけ  
でなく、医療従事者も含め、コロナの  
近くにいる人たちが差別されること  
がないようにしないと。

# STOP! コロナ差別!



### 自然界の理(ことわり)

新型コロナウイルスの発生源として、食  
用にされる野生動物のクズリやセンザン  
コウを疑う見方が出ていた。エゴイズム  
が為(な)せる考え方だ。動物は、独自の  
菌や毒をもつことで、自然界を運(たくま  
しく)生き抜いている。自然界で一番、忌  
避されているのは私たち人間だと思  
う。

### 逆の立場で

新型コロナウイルス感染者は目に見  
えない怖いウイルスに感染しようとして  
行動したのではないと思います。まして、  
我々誰もが感染しないという保証はあり  
ません。  
全国では新型コロナウイルスに関係す  
る差別や誹謗中傷がおきています。こ  
うした行為は人としてするものではありません。  
自らが逆の立場で差別や誹謗中傷を  
されても何とも思いません。まずは家  
族や身近な知り合いから話し合いを考  
えてみませんか?

### ピンチをチャンス に変えよう

コロナウイルスに関しての差別事象が  
ひどかった。とても悲しく残念でな  
らない。でも、コロナと闘っている人、  
社会を動かしている人への「励まし  
のメッセージ」もたくさんあった。  
人権を考えていくチャンスに  
したい。

### 子どもたちは見ている

新型コロナウイルス感染者数に一喜一  
憂する私たち。東京や大阪の数字は遠  
いところのように感じても、市内や丹  
波管内で感染が発生したと聞くと、勝  
手な憶測を話したり根拠のない噂を  
信じていたりしないだろうか。特に子  
どもたちがいるところで…。子ども  
たちは大人をよく見ている。子ども  
たちが正しい理解や判断ができるよ  
うに、まず私たち大人がお手本を  
見せようではないか。

### 家族でできること

家族の中でも、コロナ差別が話題とな  
った。我が家の結論は、不注意によ  
って感染をを広げないことである。「手  
洗い、うがい、したっけ?」「マスク、  
持ったっけ?」など声掛けが日常とな  
っている。家族のちょっとした心がけ  
で、差別の源を断ち切ることができる。

### 当たり前のありがたさ

今日も学校のグラウンドで元気に遊ぶ  
子どもたちの声が聞こえてくる。この  
当たり前のことが当たり前ではない日  
が来るとは、想像していなかった。子  
どもたちの声が聞こえないことはなん  
と寂しいことだろうと感じた。  
感染予防に気をつけながらの日々では  
あるが、元気に当たり前の毎日が過  
せることの幸せに感謝したい。

## 第22回丹波篠山市人権・同和教育研究大会は啓発誌でお届けします。

今年度は12月5日(土)に丹波篠山市同教研究大会を計画しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大会は行いません。ご理解のほどよろしくお願いいたします。その代わりに啓発誌を発行いたします。

# 暮らしの中から

## 幸せな介護

義母は只今90歳、特別養護老人ホームに入所して1年余りがたちます。義母は、若い頃から、家族のために身を粉にして働いてきた人でした。孫が生まれると、自分の子どものように可愛がり、面倒を見てくれました。私が長い間働いて来られたのも、義母のおかげです。年をとり、好きだった畑仕事もできなくなると、徐々に散歩以外は外に出ることも少なくなり、ひ孫が来るのを心待ちにする毎日です。

毎月通院している病院で認知症検査を受けると、かなり認知機能が低下しているとの診断を受け、介護度を調べてもらうと要介護2で、ケアマネジャーを紹介していただきました。「お母さんが動けなくなったら、私が世話をするからね。」と前から言っていた私は、いよいよ介護の時代が来たことを自覚し、退職しました。それから夫と私は、義母にとってどうすることが一番いいのかをケアマネジャーと一緒に考えました。しかし、まだ自力でトイレに行けたり入浴できたりした義母は、よかれと勧めたデイサービスにも頑として行かず、訪問看護にも難色を示す日々でした。

一年ほどたった頃、椅子から滑り落ちて尻餅をついてから立ち上がれなくなり車椅子生活をするようになりました。トイレも介助が必要になり、入浴はできなくなりました。それに伴い要介護4に。ようやく入浴を理由に週3日デイサービスに行くことになりました。その時に、ケアマネジャー、デイサービスの施設長、介護用具の業者の方が集まってくださり、これからの介護について相談できたことはとても心強かったです。

義母は、デイサービスでの様子を楽しそうに話してくれる日もあれば、怒って帰る日も。「今日はしんどいから行かへん。」と機嫌が悪い朝でも、職員の方の顔を見ると、満面の笑顔で「おはようございます。」と挨拶しているのを見て、吹き出すこともありました。しかし、休みの日は一日中車椅子に座ったままです。トイレの介助と衣服の着替え、食事の世話は私がしましたが、会話はなかなか通じなくなりました。食事だけが楽しみな義母に「今日は何してくれるん？」と聞かれ、献立に悩むことも度々でした。寝かせること、起こすことは夫が担当してくれました。

このまま家での介護が続くと思っていましたが、徐々に認知症は進んでいきます。家族が見られないときには、ショートステイにお世話になっていましたが、とうとう特別養護老人ホームに入所することになりました。まだ、家で介護できるのではないかと心が痛みました。しかし、入所した老人ホームでは家族とのつながりを大切にくださり、家族で行う田植えの日に連れて来てくださったり、レストランで家族と一緒に食事をさせてくださったりしました。

残念なことに母は亡くなりましたが、介護は人生の終末期に誰もが経験することです。一人で抱え込まず家族で支え合い、福祉の力も借りながら最後まで介護できたことは私にとってとても幸せなことでした。(西田 こそ枝)



## 私の奥深くに潜む「差別心」

ある集会で、「あんたらにも差別心あるやろ!」と険しい形相で、その場にいた数十人の人々に問いかけた方の叫びが、静寂の中に大きくこだましました。私は現在63歳ですが、その絞り出すような訴えを聞いたのは、40年以上も前のことです。「差別心」で、どんな心のことをいうのだろうか、その当時の私には、理解できていませんでした。懐疑・葛藤・嫌悪・優越・劣等などの心は、私のなかを駆け巡っていた心模様でもあり、少しは理解できたのですが、「差別心」という言葉は、自分のなかで不確かなものでした。集会が終了し、自宅に向かう車中で、「差別心」という言葉が、私の心を激しく揺さぶり、それ以降も何度も、何度も、この言葉を繰り返していました。そうすると、己の根底には、「差別心」が無意識に流れていることに、少しずつですが、気づき始めていました。

高校時代のことですが、友達と見に行った映画のなかで、ハンセン病の方の手がスクリーンに大きく映し出される場面がありました。その時、それまでには感じた事のない嫌悪の念が、己の中に湧いてきたことを覚えております。ハンセン病は完治しているにも関わらず、私にハンセン病が感染するのではないかと、という偏見が私の心に潜んでいたのです。私の「醜い心」が一気に顕在化した瞬間でした。その「醜い心」を払拭しようと、もがき続けてきたのですが、未だに拭い去れずにいます。

私は大学を卒業すると、教職に就きましたが、30年前に卒業させた教え子たちが同窓会を開いてくれました。その同窓会のなかで、ある卒業生と一対一で膝を交え語り合っていた時に、その卒業生が涙を浮かべながら、私の目を食い入るように見つめ、「部落差別や人種差別は、絶対になくならない、と僕は思っています」と悔しそうに自分自身(卒業生)の辛い体験を、とつとつ語りはじめ、私に訴えかけてきました。私は、その時、何かを伝えなければと言葉を必死に紡ごうと努めたのですが、何も言葉で伝えることができず、その卒業生の手を、ぎゅっと握りしめることが、私にできる精一杯の行為でした。「何故、悲しみのどん底にいる卒業生に、前向きに生きようとする力強い言葉をかけることが出来なかったのか」と、情けなくなり、己のなかの弱さにつながる「醜い心」に打ちひしがれておりました。

そして、その卒業生の必死の叫びを胸に、今も、七転八倒を繰り返しております。「私は、日々の生活のなかで、己の「醜い心」である「差別心」と向き合い続け、その心を少しでも払拭できるよう毎日を生きているよ」と、卒業生につながっている空を見上げながら、「この時、この瞬間」もこのことを伝え続けていくことが、私のささやかな存在の証だと思っております。卒業生が、「部落差別や人種差別は絶対になくならない」と、悔しさにまみれ、涙を浮かべながら訴えかけてきたその瞬間は、私にとって、「死ぬまで、生きる!」永遠の問いなのです。(森田 貞二)



## 専門部会研修会 (主な行事予定)



年内に予定していましたが下記の研修会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止します。

- \* 保・幼部会研修会
- \* 学校部会研修会
- \* 男女共生部会研修会
- \* 地域部会研修会

### \* 障がい者部会研修会

本年度は手渡しによる啓発チラシの配布をやめ、市内の事業所等に設置します。

- 12月上旬「障害者週間12月3日～9日」《予定》
- 設置場所：市内公共施設および事業所など
- その他：市内各3高等学校の全学生に配布

本年度予定の下記の研修会は、新型コロナウイルスの状況が好転すれば実施します。

### \* PTA 部会研修会

- 1月24日(日) 13:30～15:00 《予定》
- 内容：「あーよかったな あなたがいて～コロナ禍の親子関係～」
- 講師：仲島 正教さん(教育サポーター)

### \* 宗教部会研修会

- 2月18日(木) 13:30～15:30 《予定》
- 内容：映画観賞「ぼけますから、よろしくお願ひいたします。」

### \* 企業部会研修会

- 3月11日(木) 18:30～20:00 《予定》
- 内容：「丹波篠山市の古文書に見る 人権の歴史」
- 講師：今井 進さん(丹波篠山市古文書研究会)

### \* 高齢者部会研修会

市内各老人クラブ単位で実施します。

## 「人権・同和教育セミナー」 (今年度新規事業)中止のおしらせ

年間5回連続講座として予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止します。来年度以降、状況が好転しましたら開催いたします。その際には多くのご参加をお待ちしております。

### 編集後記

私たちは新型コロナウイルスの報道に不安を覚えます。この不安の心理が人を遠ざけ、忌避意識へと変わります。そして誹謗や中傷と言った人を傷つける言動に変わっていきます。だれもがかり得る感染症なのに、かかった人へ噂や嫌がらせ等の人権侵害をする事例が起っています。新型コロナウイルスは世界中の人々に大きな打撃をもたらしました。生命を奪い、経済を低下させ、貧困を生み出した。こうした時代にこそ、人は支え合い助け合うべきだと考えます。人を追い詰め、孤立させる噂や誹謗中傷は厳に慎むべきだと自分に言い聞かせています。

### 住民会費・企業会費のご納入 ありがとうございました

自治会をはじめ、市民や企業の皆様のご尽力により、9月末現在3,396,180円の会費をお納めいただいております。この貴重な会費は、私たち丹波篠山市で生活するすべての人たちが、互いの人権を尊敬し、あたたかく優しい気持ちで暮らしていくための啓発・学習活動に使わせていただいております。今後とも丹波篠山市同教事業にご理解、ご支援いただきますようお願いいたします。